

凡 例

1 古年輪学は新しい研究分野であり、これまでにない新しい用語を作成、使用する必要があった。それらについては、それぞれ初出した個所で説明しているが、Ⅱ章の冒頭でもまとめて概略を述べておいた。

1 日本産樹種の学名は北村四郎・村田源の『原色日本植物図鑑』（『木本編Ⅱ』1979）によっている。また、針葉樹の分布については、林弥栄『日本産針葉樹の分類と分布』（1960）を参考にした。

1 本書の作成にあたっては、Ⅰ章では田中琢が、Ⅱ～Ⅳ章では光谷拓実が、Ⅴ章では田中と光谷とが、Ⅵ章では京都大学防災研究所の佐藤忠信と八嶋厚とが、Ⅶ章では田中が、それぞれ原稿の執筆を分担し、全体を田中が調整し、編集した。

1 英文レジメの翻訳はハーヴァード大学の佐々木憲一氏にお願いした。多忙のなか、ご協力いただいたことに感謝する。

1 本書で報告した調査研究を進めるにあたっては、多くのかたがたや諸機関の絶大なご支援をいただいた。

現生木試料関係：青森営林局、横浜営林署、大畑営林署、川内営林署、増川営林署、今別営林署、金木営林署、乙供営林署、三本木営林署、秋田営林局、藤里営林署、秋田営林署、能代営林署、川井営林署、長野営林局、上松営林署、玉滝営林署、名古屋営林支局、付知営林署、小坂営林署、尾鷲営林署、高知営林局、魚梁瀬営林署、下屋久営林署、日光東照宮、高野山金剛峯寺などの諸機関

出土品等試料・各種情報関係：岩手県立埋蔵文化財センター、宮城県多賀城跡調査研究所、仙台市教育委員会、秋田県教育庁弘田柵跡調査事務所、二ツ井町役場、大森町教育委員会、酒田市教育委員会、真室川町立歴史民俗資料館、福島県教育委員会、大平町教育委員会、東京都教育庁、葛飾区教育委員会、小矢部市教育委員会、能都町教育委員会、福井県立朝倉氏遺跡資料館、松本市教育委員会、長野県飯田図書館、駒ヶ根市誌編纂室、静岡県埋蔵文化財調査研究所、静岡市登呂博物館、裾野市富士山資料館、韮山町教育委員会、愛知県埋蔵文化財センター、三重県教育委員会、滋賀県教育委員会、滋賀県立近江風土記の丘資料館、信楽町教育委員会、京都大学文学部考古学研究室、京都府埋蔵文化財調査研究センター、京都市埋蔵文化財研究所、大阪府教育委員会、大阪埋蔵文化財センター、羽

曳野市教育委員会、四條畷市教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、奈良市教育委員会、橿原市教育委員会、桜井市教育委員会、和歌山県教育委員会、鳥取県埋蔵文化財センター、米子市教育委員会、島根県教育委員会、広島県草戸千軒町遺跡調査研究所、山口県教育委員会、徳地町教育委員会、香川県教育委員会、高知県教育委員会、福岡県九州歴史資料館、福岡市教育委員会、東大寺、法隆寺、大安寺、法起寺、菅田八幡宮、岩崎寺、法光寺、月輪寺、皇徳寺、美術院国宝修理事務所などの諸機関

阿部謙三、天野正幸、泉武、伊藤延男、岩見誠夫、牛嶋茂、大友千之、岡田文男、小野忍、小野山節、包国征治、梶谷亮治、菊竹淳一、木越邦彦、木村浩二、栗野克己、小池宏、河野正、古城泰、小林達朗、昆慶一、西藤清秀、斉藤章一郎、佐々木洋治、佐藤貢、清水真一、M=シュターン=清水、須崎陽子、鈴木丙馬、高橋宏明、高橋与右エ門、高橋美久二、田端忍、佃幹夫、寺岡義治、中川隆、中西盛士、錦織亮介、西田禎利、萩原儀征、原田文男、平田寛、樋口隆康、藤原武二、舟木義勝、本藤敏夫、三浦定俊、宮腰健二、村上章、山川清水、吉積久年などのかたがた

さらに、奈良国立文化財研究所の同僚諸氏をはじめ、お名前を書きもらしたであろう多くのかたがたのご理解とご支援とご教示があった。それらがここに報告した新しい分野におけるわれわれの研究を可能にしてくれた、と痛切に感じている。

これらの諸機関、諸氏に心からお礼を申しあげる。

1 標準パターン、とくに暦年標準パターンは、本書で報告しているように、一定の段階で完成する性格のものではなく、たえず補強延長作業を続行している。また、その数値情報はいまにも厩大なものである。したがって、今回の報告では、暦年標準パターンをはじめ、年輪幅の数値データは掲載しなかった。それぞれの研究を進めるうえで必要とされる向きは、お申し出いただければ、必要なものを提供する用意がある。